

令和6年度
(2024年度)

学校関係者評価報告書

令和6年(2024年) 4月 1日から

令和7年(2025年) 3月31日まで

令和7年(2025年)7月24日

学校法人吉田学園
吉田学園医療歯科専門学校

■令和6年度 学校関係者評価について

〈説明〉

医療系専門学校の社会的責任を果たすため、本校の校訓や教育目標、教育実績などの実態と照らし合せ、自らの教育研究活動等の状況を自己点検、自己評価し、現状の把握・認識に努め、課題や改善を要する点などを検証し、教育の質・水準の向上、学校関係者への報告によるガバナンスの改善につなげるとともに組織的継続的な取り組みを図り学校運営力の向上に努めていくことを目的に実施する。

1. 実施日時

令和7年7月24日(木) 18:00～18:50

2. 実施場所

吉田学園医療歯科専門学校 2階会議室

3. 実施方法

(1)実施組織:学校関係者評価委員会

○学校関係者評価委員

菊池 恒 札幌狸小路商店街振興組合 顧問

小島 修二 札幌創成高等学校 校長

八若 保孝 北海道大学大学院歯科研究副院長 教授

松原 明勇 石狩北部地区消防事務組合 石狩消防署警防課 救急担当 ※欠席

○学校職員

吉田 克彦 吉田学園医療歯科専門学校 校長

三上 剛人 吉田学園医療歯科専門学校 副校長

齋藤 勤 吉田学園医療歯科専門学校 副校長

(2)評価基準:文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠

(3)評価方法:令和6年度学校運営・教育活動実績報告書に対する学校関係者評価

4. 評価項目

次の11項目について実施

(1)教育理念・目標

(2)学校運営

(3)教育活動

(4)学修成果

(5)学生支援

(6)教育環境

(7)学生の受け入れ募集

(8)財務

(9)法令等の遵守

(10)社会貢献・地域貢献

(11)国際交流

5. 評価項目に対する評価

(1) 4段階で点数評価

4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

(2) 委員会で提出された意見や質疑、提案事項を記載

① 全体を通しての評価結果に対するご意見、ご質問等

(消防団での活動報告)

総務大臣表彰受賞歴もある担当の中央区の消防団活動について、本校から学生4名・講師1名の入団希望があり現在審査中であること、地域活動のひとつではあるが専門学校の学生は時間的に活動が厳しいところがある中、消防団の活動内容としてeラーニングの活用による学習機会の増加に取り組んでいる現状の報告がなされた。

(私学の高校現場についての現状報告)

高校生の大学・専門学校進学に関する現在の状況について説明があり、高いハードルを越えてきていない、いわゆる厳しい受験等を経験している学生が多くないことも影響していると思われる指定校制度の利用が多い現状、年内入試でほぼ結果が出る現状、地方の大学は国立であっても定員割れしていること、これらを踏まえて生き残りを考えると、高校とのコラボ実施や入学後の学生支援等を何らかの形で高校教員等へも伝えていくなど、少子化が加速する時代になることを考えると、早めの体験学習等のサービス面の強化などが率直な意見として説明がなされた。

学校より、進路指導・職業理解のひとつとして中学生に対する体験イベントの実施、中学校に向いての救急救命体験の実施について説明がなされた。また、救急救命は看護と迷う学生も多く、医療が細分化されたことに伴う看護師離れを感じる状況や病院で働く救急救命士の役割の変化などの注目点について話があり、職業を知るための早めの機会創出の必要性や大学を辞めて入学してくる学生の目標を持って取り組む専門学校生に対する羨ましい思いなどの事例についての説明がなされた。

(離脱者・ボランティア・卒業生に関する質問とご意見)

3年次での退学はもったいないと思うのだがどのような理由が多いのか？の質問に、学校よりここでも高いハードルを越えてきていない要因もひとつあり、小さいハードルを越えさせる積み重ね教育もうまくすり抜けてきた結果や辛い国家試験よりも楽しいアルバイトにシフトするなどの流れがある説明がなされ、やはり進路選択の定着としては2年生であることを理解した。

コロナの影響はもうないのか？の質問に、学校より現在は影響がほぼないとの返答がなされ、逆に6年間である北海道大学ではコロナ経験者がまだいることで影響がありハードルを越えられない状況もあるとの情報共有がなされた。

ボランティアの日程調整方法と評価の有無についての質問に、本校の調整方法と評価はしていない旨の回答をし、地域の方々からの評価を得る機会があるとよりやりがいも増し、年齢の違う人たちとの交流が持てる繋がりができることで、社会貢献の実装ができるとのアドバイスをいただいた。

卒業生に対して卒業時に何かしらの意見(アンケート)徴収を行っているのか？の質問に、学校より実施している現状の報告があり、その時の思っていることは重要なことが多く大事な意見となることが多いと思うので、ぜひ取り上げてほしいとのご意見をいただいた。

(ボランティア活動についてのご意見)

学生が学生同士の手で取り組むようになることで保護者や周りの方々の評価や印象も良くなり、そういう学校に来たいとの思いに繋がっていく。ボランティア活動を促し自分たちでいろいろ行うことで

学校自体も変わっていくし、こういうことが大事だと思っているとのご意見をいただいた。

学校より、学生の主体性をいかに育むかということに取り組んでおり、医療歯科のスポーツ大会、吉田学園の学園祭執行部、アオハルプロジェクトという学生生活動の支援プロジェクトについて説明がなされ、教員の関わり方に苦慮している点についても補足説明がなされた。

現在実施しているキャンパスタウンクリーンアッププロジェクト(地域のゴミ拾い)の情報について提供いただき、町内会としてジョイントなど協力できないかを検討したいとのご意見をいただきました。

6. その他

(1)以下、令和6年度 学校自己点検・評価要約である。詳しくは令和6年度 学校自己点検・評価報告書を併せて確認いただきたい。

項目1 教育理念・目標

- ・項目評価 4.0
- ・特に課題はなかった。

項目2 学校運営

- ・項目評価 3.9
- ・教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換について、情報交換の際に得た提案などは記録を行い学科会議で議案として確実に検討共有される仕組みを構築する。

項目3 教育活動

- ・項目評価 4.0
- ・特に課題はなかった。

項目4 学修成果

- ・項目評価 4.0
- ・特に課題はなかった。

項目5 学生支援

- ・項目評価 4.0
- ・特に課題はなかった。

項目6 教育環境

- ・項目評価 4.0
- ・特に課題はなかった。

項目7 学生の受入れ募集

- ・項目評価 4.0
- ・特に課題はなかった。

項目8 教育の内部質保証システム

- ・項目評価 4.0
- ・特に課題はなかった。

項目9 財務

- ・項目評価 3.7
- ・学科ごとの定員充足に向けた広報戦略の強化と並行して、収支構造を精査し、固定費・変動費を含めた経常支出の見直しを進める。損益分岐点を意識した収支管理を徹底し、学納金依存からの脱却を視野に、持続可能な財務体制を構築する。
- ・月次・四半期単位での予算執行状況の点検と報告を制度化し、財務状況の可視化を図る。過去実績に基づいた積算と見積根拠の明確化を通じて、収支計画の精度向上を目指す。さらに、柔軟な予算修正が可能となるよう、運用フローの整備も進める。
- ・監査の意義を教職員に周知・共有するため理解を求めたい。財務管理(物品・金銭など)や決裁手順に関するルールを明文化・周知徹底することで、財務執行の妥当性と透明性を高める。
- ・財務情報の公開内容を職員にも定期的にフィードバックし、教職員が経営状況を理解・把握できるようにしたい。財務の透明性を対外的にも校内的にも高めていく。

項目10 社会貢献・地域貢献

- ・項目評価 4.0
- ・特に課題はなかった。

項目11 国際交流

- ・項目評価 4.0
- ・特に課題はなかった。

以上